

『小右記』こぼれ話

麝香は「へそ」と数える

下向井龍彦

長和三年（一〇一四）二月九日、内裏が焼亡した。『小右記』の同日条とそれに続く記事から、以前、「徒歩の実資、乗車の実資」というエッセイを書いたが（『日本歴史』七二二号 二〇〇七年）、この内裏焼亡を素材にまた一つ。

内裏が焼けたとき、一番先に救い出すのは天皇だが、モノでは賢所すなわち神鏡であった。『小右記』同日条で、実資は大極殿に駆けつけ、天皇・中宮・東宮の無事を知って安堵したあと、すぐに安否を確認したのは、「恐所奉_レ出了云々」とあるように、「恐（賢）所」であった。天皇・神器の安全が確認されると、今度は稀少な高価な品々が次々に持ち出される。火災の翌日、左大臣道長は焼け跡から金銀を回収させた。蔵人所納殿に収蔵されていた砂金や調度類に使っていた金銀細工が溶解して塊になったものだろう。

十三日になると、納殿を預かる蔵人所出納が、火災のどさくさに紛れて「唐物」の一部をちよるまかした疑いをかけられ、取り調べられていた。また火災直後には、右の唐物とは別に、丁子・純金・麝香を内裏から取り出し朝堂院に運んでいた。その話を翌日聞いた実資は、続けて「而麝香紛失云々、卅臍云々」と記す。運び出したお宝のうち、麝香は

*

*

紛失したそうだが、その数は二〇「臍」だったそうだが、というのである。紛失した麝香は、十八日、蔵人所小舎人秋成が盗んだことが明らかにされた。秋成は盗んだ麝香のうち「六臍」を「尿管」に入れ、「古東宮」（西雅院か）に埋めて隠しておいたが、秋成の自白をもとに掘り出したという。残りは近江国に持ち出したとの自白によって、検非違使が小舎人秋成を連れて近江国に馳せ向かった。何時の時代でも火事場泥棒はいるものであるが、内裏焼亡の場合、火事場泥棒は、蔵人所出納・小舎人ら、平素、お宝の管理・出納にあたる下級官人だったのである。とっさに隠した容器が中宮や女房が使う「尿管」であったというのも面白い。

だがここで私の目を引いたのが「卅臍」「六臍」の文字である。麝香は、「へそ」を単位に数えるのか？そこですぐさま『小右記』データベース。本例を含め五例あった。すなわち、長和四年九月二十四日、大宰権帥藤原隆家が種々の唐物を八つの皮籠に入れて天皇に献上したが、皮籠のなかには「種々香、丁子百余両・麝香十臍・甘松・衣香・甲香・沈香」「鬱金・薰陸」が納められていた。麝香は「十臍」だった。また、万寿四年（一〇二七）十二月八日、肥後守惟宗貴重から実資に唐物が進上されたが、その内訳は「麝香二勝〔臍〕・丁子十両・大文唐綾二疋・蘇芳斤・金青三両二分・緑青百両・檳榔三百把・温石鍋二口、大小一口」とあり、すべて数える単位がついている。麝香を数える単位はやはり「臍」なのである。最後に、万寿五年十二月十五日、宋商客周文裔が右大臣実資に進上した貨物目録のなかに「翠紋緑殊錦疋疋、大紋白綾參疋、麝香式臍、丁香伍拾両、沈香佰両、…」があり、中国でも麝香を数える単位は「臍」だったことがわかる。唐物の単位が中国方式であるのは当然ではある。

*

そうすると物語文学にも出てきそうなものである。『とはすがたり』巻

二「酒宴の後、院の黙契で大殿作者と契る」には、

今日は御所の御雑掌(ざしやう)にてあるべきとて、資高(すけたか)承る。御事おびたたく用意したり。傾城(けいせい)参りて、おびたしたしき御酒盛なり。御所の御はしりまひとて、ことさらもてなしひしめかる。沈(ちん)の折敷(をしき)にかねの盃(さかづき)すゑて、麝香(ざかう)の(へそ三つ)入れて、姉賜(たまた)はる。かねの折敷に、瑠璃(るり)の御器(ごき)に(へそ一つ)入れて、妹(おと)賜はる。

とあり、院が主催する宴で、姉の白拍子には沈香の折敷に「かね」の杯を載せ、それに麝香を「へそ三つ」入れ、妹には「かね」の折敷に瑠璃の器を載せ、それに麝香を「へそ一つ」入れて与えたという。「臍」を「へそ」と読んでいたことがわかる。

*

ではなぜ麝香は「臍」(へそ)で数えるのだろうか。それは麝香が何なのかわかれば、すぐに納得できる。ジャコウ(麝香)とは、ヒマラヤ山岳地帯に生息する雄のジャコウジカの臍と生殖器の間にあるにおい袋(香囊)から取る分泌物である。臍から続く麝香腺(におい袋)を臍からえぐり取って乾燥させた塊が麝香。麝香はすなわち臍(へそ)の塊なのである。

(二〇〇五年三月一日成稿)

大学院演習『小右記』講読担当者一覧④

演習日 担当条 担当者

二〇〇一年

六月 七日 長保元年八月二七日・二八日・二九日

九月 一日・二日・三日・四日条 福田 一齋

七月 五日 長保元年九月一〇日・十一日・十二日・

一三日条 福田 一齋

七月 二日 長保元年九月一四日・一五日・一六日・

一七日・一八日・一九日条 小島 荘一

七月 二六日 長保元年九月二四日・二五日・二七日・

二八日・二九日条 福田 一齋

二〇〇二年

四月 二日 長保元年九月二四日・二五日・二七日・

二八日・二九日・三〇日・一〇月一日条 福田 一齋

四月 一九日 長保元年一〇月二日・五日・六日

五月 一〇日 長保元年一〇月二日・一四日・一五日条 小谷 祝子

五月 二四日 長保元年一〇月二二日・二三日・二四日条 片上 智寛

五月 三一日 長保元年一〇月二五日・二七日条 市川 裕士

六月 七日 長保元年一〇月二八日・二九日・三〇日条 遠藤 修平

六月 一四日 長保元年一〇月一日・二日・三日条 小島 荘一

六月 二一日 長保元年一〇月四日・五日・六日条 市川 裕士

七月 五日 長保元年一〇月九日・一〇日・一一日条 遠藤 修平

七月 二二日 長保元年一〇月二二日・一三日・一四日・一五日条 市川 裕士

七月 二六日 長保元年一〇月一八日・一九日・二〇日・二一日条 遠藤 修平

九月 一三日 長保元年一〇月七日・八日条 市川 裕士

渡邊 誠